

授業科目名	教養講義（歴史学概論）	選 択	開講年次	1	単位数	2
科目区分	基本科目／教科に関する科目（地歴・社会）					
サブタイトル	歴史学の基礎と歴史観を学ぶ	担当者	菊島 啓			
講義概要	<p>【概要】</p> <p>歴史好きの人は世に多い。しかし、歴史が通り一遍の過去の出来事と思っている人は意外と多い。そこで本講義では、最初に歴史がどのように叙述され認識されてきたかを解説していく。さらに、歴史学で扱う素材、すなわち史料や資料の意味を概説し、個別の歴史の見方、世界における歴史観なども紹介していく。</p> <p>【到達目標】</p> <p>歴史の表裏を理解することに主眼を置く。同時に、これまでの歴史教育の誤解を解き、暗記ではなく、考える歴史学の形成に寄与する。</p>					
履修条件	私語を慎み、真面目に受講すること。					
教科書・参考書	<p>【教科書】 特になし</p> <p>【参考書】福井憲彦『歴史学入門』（岩波書店、2006年） 佐藤卓巳『ヒューマニズム歴史学』（岩波書店、2009年）</p>					
授業回数	内容					
1	ガイダンス、歴史の表裏					
2	歴史とは何か、歴史学とは何か					
3	中心史と地方史、先史と有史について					
4	歴史の叙述とは、歴史を学ぶことの意義					
5	わが国における歴史学教育概説					
6	近代歴史学の成立（ランケ）、歴史学の三派鼎立					
7	歴史の素材、史料と資料、文字史料と非文字資料					
8	時代区分、紀年法、元号					
9	歴史の構造（政治史、経済史、社会史）					
10	歴史学の諸潮流 1（発展史観など）					
11	歴史学の諸潮流 2（アナル派、近代世界システム論など）					
12	大航海の歴史 1（ヨーロッパとアジア）					
13	大航海の歴史 2（ヨーロッパと日本）					
14	個別の歴史検証（白村江の戦い、秀吉による朝鮮出兵など）					
15	総括と補足					
評価方法	平常点（出席と受講態度）20%、定期試験 80%の総合評価、ただし受講生の人数等の関係で定期試験に替えてレポートないし、その他の方法を取ることがある。その場合講義中に説明する。					
評価基準	上記授業内容について、積極的に授業に参加し、十分その内容を理解した者には「A」、また、その程度によって「B」ないし「C」を与える。授業参加および理解度が著しく低い場合は、その程度によって「D」または「E」とする。					
その他	特になし					